

# 向岡記碑の研究

## 3D デジタル測量による記録保存と 向岡記碑の保存修復報告書

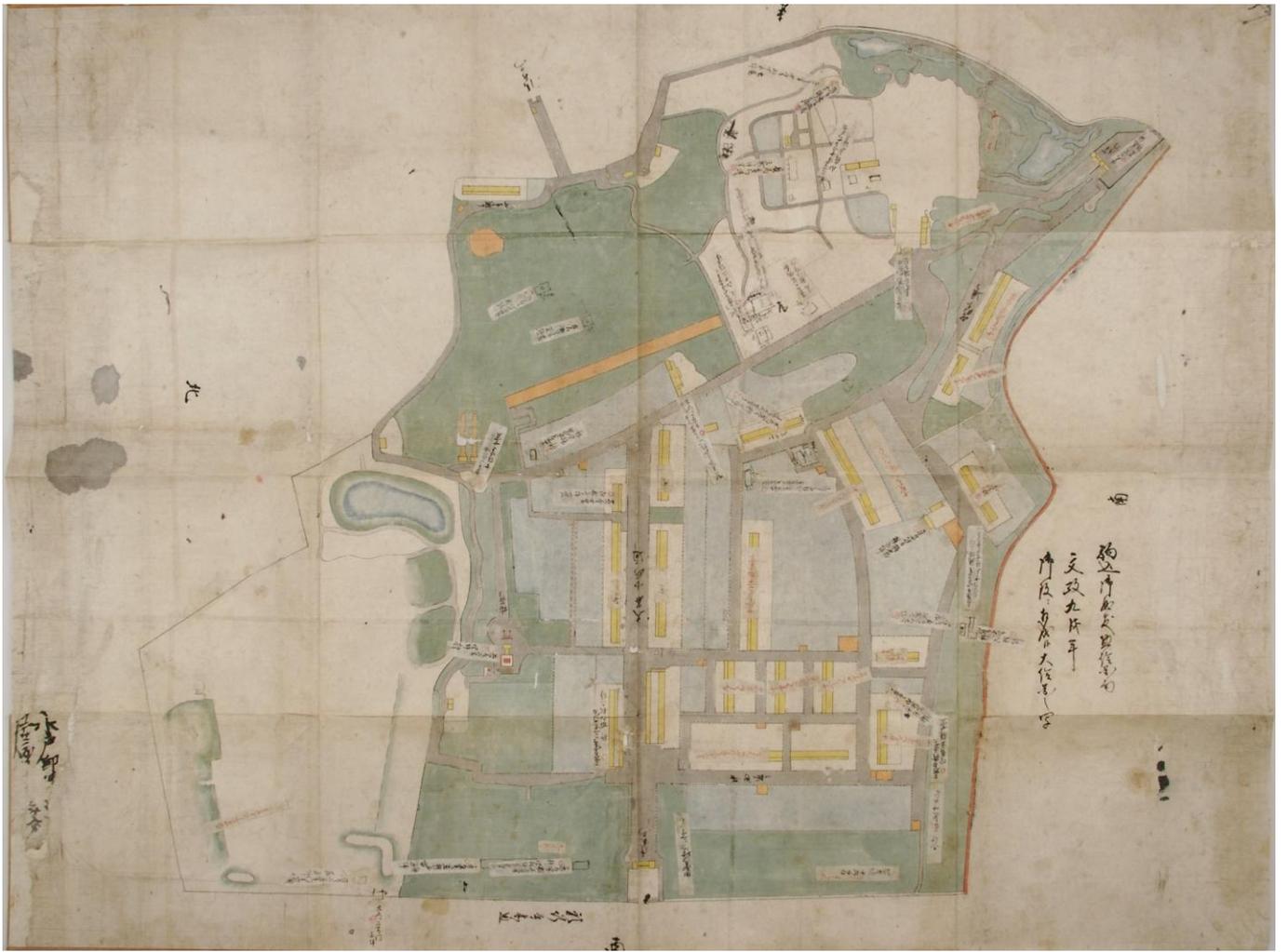
2016 年 3 月 5 日

向岡記碑保存周知研究グループ 東京大学埋蔵文化財調査室





向岡記碑（青山正昭撮影）



『向陵彌生町舊水戸邸繪図面』文政9（1826）年墨書（原祐一藏） 青山正昭 撮影

向岡記碑 拓本

三字十六三八字合計六四一字

横山惇一 手拓

垂水李 表装

青山正昭 撮影



むかひがをかのき

向岡記

そらみつやまと さざなみのしがわたりは ふるきみやこのあととて みやびをの ここかしこ はえあるところを  
 空美都大和、神楽浪能志賀王當隣波、不留紀京師能阿登々天、微夜備遠能、固々可紫孤、半衣有處袁  
 めでては ここたくのおもしろきうた ながめいでられなどせしから などころさへぞいとおほかりける  
 綿泥弟八、許々當久能意茂斯呂幾宇他、那賀每出羅連奈杼勢斯迦良、名處佐邊存伊止多加梨計流。  
 しかあるを ここもとほ むかしへよりたけきものふのみにして かもちすけにふだうなどこそあれ  
 四甘阿流遠、枯々毛登半、無河新閉与里他計岐武夫乃三珥志庭、彼持資能入道娜杼巨曾安禮、  
 そのほかはおほかたみやびたるひとはすくなくむありしかば そのなきこゆるところもいたづらにこそみすぐし  
 其外半大方美也媚駄累人破少九那無有芝可婆、其名聞由類處母以當豆良二去層見過信  
 けめと いとくちをしきを ときのゆければ さくはなのさかりなるみよには とりがなくあづまのくに  
 氣面登、以登口遠新奇袁、時能遊介連伐、咲花能盛南流御世尔伴、登利賀鳴吾妻能國  
 むさしののあれたるも いつしかなあがれるところどころおほくなりて あるは  
 夢沙新野能荒他留毛、伊都始迦名阿鷲禮流等許呂杼許路多久南隣天、安屢八  
 いしふみたてなどして そがゆゑよしかきつけぬれば おのづからひとのしるべともなり  
 石婦美立那杼四亭、其賀故用士閑吉都介努連婆、於能豆可樂人能之屢別得毛奈利、  
 かつはそのところのおもておこしならむかし とももこれのころは いにしへ  
 嘉通波其處能於門低應許指南羅夢何始。曾母曾毛胡禮能處巴、古遍  
 たらうよいへのきみ みちのくへくだりたまひ いかめしくあらぶるえみしらをやはしむけたまひしときの  
 太郎義家能君、陸奥弊下里賜比、異可面志丘阿羅布流延美芝等遠也波斯無氣賜肥志時能  
 ゆきかひぢなりとて まこといつはりはしらねど そのをり よろひかけられたりといふふるきまつも  
 愈記加俣智奈理登底、摩枯藤伊津波隣破志良祢渡、其遠利、鎧嘉羅羅禮當離登以不浮留寄案母  
 あなり またをのこまぢがうたに むさしののむかひのをかよめるも このところにやあらむ いまもこのころをさいへば  
 安那里。又小野小町賀宇當尔、武蔵野能向岡登與迷流母、此處仁也安良牟。今母此處遠左以敵婆、  
 こはめでたきなどころにして はるなつあきふゆのつきぬながめには はなほとときすもみぢゆきふるころもうちすつべくも  
 許半女傳當幾名處爾四堤、春夏秋冬能都吉奴詠尔八、花子規紅葉雪不流衣打捨辨句母  
 あらねば むさしののうけらとかいふめるはな かずならぬたけをらも このところにすみぬればとて いまここに  
 阿良称伐、武蔵野能宇氣樂登加云米累花、数奈良奴建男等母、此處尼住奴連伐登庭、今茲  
 ぶんせいとをまりひととせといふとしのやよひのとをか さきみちたるさくらがもとにしてかくはかきつくるにこそ  
 文政十萬梨一登勢止移布年能夜余秘能十日、咲滿他留佐九良賀本迹志亭可丘波加伎通孔類二許曾。  
 さるは ゆみやとるみも たけきをのみほりするものかはとおもふに やまとうたはものふのころを  
 佐屢波、弓矢藤類身毛、猛吉乎乃美本利寸流目能加波登思不尔、大和宇當八武夫能心乎  
 やはらぐるなるを そがすべえしらねば なかなかいひでつべきことのはもあらねど かかるところを  
 也波良具留奈流遠、其賀酒別江斯羅称婆、娜迦奈可以飛出川閉鬼固登能波毛阿良称杼、加々流處遠  
 ただにみすぐさむもあたらしければ やさしかれどかくなむ  
 只耳見過佐牟門阿陀樂斯氣禮伐、夜左斯可禮杼迦九那無。  
 なにしおふ はるにむかひがをかなれば よにたぐひなき はなのかげかな  
 名尔進於不、春爾向賀岡難連婆、余尔多具肥奈岐、華乃迦計哉。

むかいがおかのき  
向岡記

(空満つ) そらみ 大和や (神楽浪の) さざなみ 志賀のあたりは、古い都の跡ということ、風雅な人々があちらこちらを美しくすばらしい所であるとほめたたえ、沢山の趣向を凝らした歌が詠まれたりしたので、名高いところが大へん多いのである。ところが、この辺りは、昔から勢い盛んな武士ばかりで、かの太田道灌などが居ったとはいえ、その外は、全体として雅な人 みやび は少なかったから、名の通った所もむなしく見過してしまつたのだらうと大層残念なことであるが、時が移りゆき (咲く花の) 盛りの御代になつた今では、(鶏が鳴く) あずま 東の国、武蔵野の荒野も、何時の間にか名の知れた所が多くなつて、例えば石碑を建てるなどしてその主旨などを書きつけたならば自然と人々の手引きともなり、ひいてはその地の誉れともなるだらうよ。そもそもこのあたりは、その昔、源義家公が奥州に下られ、荒々しく乱暴な蝦夷どもを平定された時、往き帰りされた路である、ということ、真偽のほどは知らないが、その折 よろい 鎧をお掛けになつた古い松がある、と聞いている。また、小野の小町の歌に「武蔵野の 向岡」と詠んだのも、このあたりではなかるうか。今もここを「向かいが岡」ということからしても、ここは申し分なくすばらしい名所であつて、春夏秋冬の情趣の尽きぬ眺めとしては、花、ほととぎす、紅葉、雪と、(ふる衣) 捨て置き難いものがあるし、武蔵野の「うけら」とかよばれる花のように、取るに足りない勇者らも、このあたりに住んでいることだからと思ひ、今ここに、文政十一年の三月十日、咲き満ちた桜の木のもとに、このように書きつける次第である。というのは、武士の身であつても、勇猛なだけを望むものではあるまい、と思うと同時に、和歌は武人の心を和らげると聞いているが、その和歌をつくる方策を知り得ないので、容易には、言い出すことばも見つからないけれども、このような所を、何もせずに見過してしまつたのも惜しいので、恥ずかしいけれども、このように詠んだ。

名にし負ふ 春 むかひをか 向岡なれば 世 たぐひ 類なき 花の影かな

(まさにその名にふさわしく 春に向かう、その向かいが岡であるからして、他に比べるがないほどすばらしい花の有様であることよ。)



# 向岡記碑の研究

## 3D デジタル測量による記録保存と 向岡記碑の保存修復報告書

### 目次

巻頭写真・碑文

目次	7
向岡記碑の研究 3D デジタル測量による記録保存と向岡記碑の保存修復 開催にあたって	8
研究報告会プログラム	9
向岡記碑研究の経緯 原 祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）	10
向岡記碑の保存修復 石原道知（武蔵野文化財修復研究所）	12
向岡記碑の3次元測量 田子寿文（アイテック）	22
向岡記碑の研究 徳川齊昭と向岡記碑 原 祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）	29
謝辞	39
見学会資料	40

## 向岡記碑の研究

### 3D デジタル測量による記録保存と向岡記碑の保存修復 開催にあたって

向岡記碑保存周知化研究グループ代表  
原 祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）

向岡記碑はのちの水戸藩主徳川齊昭が揮毫した石碑で、不忍池、忍ヶ岡を望む向ヶ岡の水戸藩駒込邸の庭園に建立されました。石材は茨城県常陸太田の真弓山産の寒水石（大理石）で、碑文には向ヶ岡の歴史、文末に文政 11 年（1828 年）に向ヶ岡の景観を詠んだ齊昭の歌が刻まれています。また、石碑の建立と名所の創出についての記述は、齊昭が藩主就任後に水戸で行った水戸八景碑の建立に繋がり、藩政への意気込みを読み解くことができます。明治 5 年（1872 年）、駒込邸跡地は駒込邸の立地した向ヶ岡と碑文の「夜余秘（やよい）」から向ヶ岡弥生町と名付けられます。明治 17 年（1884 年）この町から発見された土器は町名から「弥生町式土器」と呼ばれるようになり、後に「弥生時代」という時代名が定着、縄文時代に続く時代名となります。駒込邸の一角は浅野侯爵邸となり、碑は水戸徳川家から浅野家へ引き継がれます。戦後、浅野侯爵邸は東京大学の敷地になり、構内の開発に伴い碑は移転。2005 年最初の調査で碑は見つからず、2 回目に発見した碑は酸性雨によって表面痛み碑文は読みづらくなっており、側面には割れが発生。排気ガスによって碑は黒ずんでいました。2007 年、4 名の有志で結成した「向岡記」碑研究グループは、碑の酷い現状を何とかしようとして碑の調査研究を開始。後に様々な方々のご協力を得て 2008 年、東京大学創立 130 周年記事「知のプロムナード」で保存修復と展示を実現しました。2011 年、東京大学総合研究博物館で企画展示「弥生誌 向岡記碑をめぐって」が開催され、2014 年、文京区指定文化財に指定されました。2011 年 3 月 11 日の東日本大震災では碑に被害はなく今に至っています。水戸市弘道館、齊昭建立の弘道館碑は向岡記碑と同じ寒水石製で、震災で崩壊、保存修復を終了し公開されました。碑の保存修復は写真、拓本を用いて行われました。近年 3D 測量の文化財への応用が盛んで、東日本大震災で被災した瑞龍山水戸藩墓所の保存修復では現状を把握するための 3D 測量が積極的に導入されています。向岡記碑は酸性雨でできた空洞を樹脂で埋め強化したのですが、地震の規模によっては崩壊の可能性があります。万が一破損した場合、碑文が不鮮明なため、弘道館碑のように写真と拓本を用いて修復するのは困難と考えられるため昨年、向岡記碑保存周知化研究グループを結成し、碑の 3D デジタル化と現在の保存状態の調査を行いました。デジタル化は文化財が破損に備えるための記録保存という側面もありますが、移動不可能な石造文化財をデジタル化することで活用の広がりが期待されます。今回、これまでの研究成果、保存修復、向岡記碑の 3D デジタル測量と文化財への利用にと可能性について報告会を行います。

本書は、公益財団法人朝日新聞文化財団 平成 27 年度文化財保護助成「徳川齊昭建立「向岡記碑」の 3D デジタル測量による記録保存と碑の周知化への取り組み」原祐一（研究代表者）、堀内秀樹（東京大学埋蔵文化財調査室）、石原道知（武蔵野文化財修復研究所）、田子寿史（アイテック）による研究成果報告書です。

# 向岡記碑の研究

## 3D デジタル測量による記録保存と向岡記碑の保存修復

主催：向岡記碑保存周知化研究グループ、東京大学埋蔵文化財調査室

開催日：2016年3月5日（土） 13：30～17：00

会場：中島董一郎記念ホール 東京大学弥生キャンパス内フードサイエンス棟1F

参加費無料、事前申し込み不要

懇親会：向ヶ岡ファカルティハウス（東京大学弥生キャンパス内）

レストランアブルボア 2F **Bar ABREUVOIR**

参加費：5,000円程度を予定

問合せ：原祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）

電話 03-5454-8421 メール [y-hara@dolphin.ocn.ne.jp](mailto:y-hara@dolphin.ocn.ne.jp)

## プログラム

- 13：30～14：30 水戸藩駒込邸跡（中屋敷）の庭園跡と向岡記碑の見学  
東京大学農学部正門前集合
- 15：00～17：00 研究成果報告会
  - 15：00～15：05 開会あいさつ
  - 15：05～15：10 向岡記碑研究の経緯  
原祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）
  - 15：10～15：40 向岡記碑の保存修復  
石原道知（武蔵野文化財修復研究所）
  - 15：40～16：10 向岡記碑の3D測量（仮題）  
田子寿文（アイテック）
  - 16：10～16：20 休憩
  - 16：20～17：00 向岡記碑の研究 徳川齊昭と向岡記碑  
原祐一（東京大学埋蔵文化財調査室）
- 17：30～ 懇親会

## 会場案内



# 向岡記碑研究の経緯

原 祐一

(東京大学埋蔵文化財調査室)

向岡記碑はのちの水戸藩 9 代藩主徳川齊昭が藩主就任前の部屋住み時代に揮毫した石碑で、題額「向岡記」3 字と銘文、漢字仮名(万葉仮名)交じり文 637 字からなる。碑文に向ヶ岡の歴史、江戸の開発と景勝地の創出、碑建立の意義などを記し、「文政十萬梨一登勢止移布年能夜余秘十日(文政 11 年(1828 年)やよい(3 月)10 日)」に「名尔進於不 春爾向賀岡難連婆 余尔多具肥奈岐華乃迦計哉(名にし負ふ 春に向が岡なれば 世に類無き華の影哉)」と和歌を詠んでいる。明治 5 年(1872 年)東京府は、「夜余秘」と「向ヶ岡」を合わせ、駒込邸跡地を向ヶ岡弥生町(現、文京区弥生)と命名。明治 17 年(1884 年)に町内で発見された土器は、碑由来の町名から弥生式土器と名付けられ、後に時代名となる。しかし、碑の存在は、考古学関係者以外にはほとんど知られておらず、職員の中でも存在はほとんど知られていなかった。碑の周りのごみ置き場で、隣接する液体窒素のタンクから排出される窒素ガスが液体窒素補充の度に浴びていた。ごみの積み上げによる破損、工事でペンキを浴びるなどひどい設置状況であった。考古学史と水戸徳川家研究の重要な資料という評価から、2005 年から碑の調査を開始、碑がどこにあるかが最初の調査で 2 回目に碑を実見することができた。2007 年、東京大学広報センター細谷恵子氏より連絡があり、碑の拓本について塩原都氏より相談を受け、塩原氏、横山淳一氏、垂水李氏、原(「向岡記」碑研究グループ)が調査を開始する。碑の保存状況が明らかになり保存修復が必要ということから石原道知氏、堀江武史氏より助言を受けた。学会発表を積極的に行い、碑の見学会を開催した。2008 年『「向岡記」碑保存修復報告書 「向岡記」碑の研究』を刊行した。同年、東京大学 130 周年記念事業「知のプロムナード」で保存修復と展示を実現、石原氏、堀江氏が保存修復を担当。石碑を固定していたコンクリートの除去を担当した小林善行氏から碑の固定方法についてコンクリートによる固定から台座に持たせかける方法が提案された。結果的にこの設置方法によって東日本大震災で碑の破損被害は無かった。その後、飯村博氏が研究グループに参加、これまでの碑文の現代語訳、万葉仮名の読みを再検討、臨書を作成した。2011 年、東京大学総合研究博物館で企画展示「弥生誌 向岡記碑をめぐる」が開催され研究成果が展示された。2013 年度、文京区教育委員会による碑の文献調査が行われ、町田聡氏の調査で向岡記碑と水戸藩 8 代藩主で齊昭の兄徳川齊脩の建立した同じ寒水石製の徳川齊脩漢詩碑の石材が国元の真弓山から江戸へ持ち込まれ、部屋住み時代の齊昭が碑の建立にかかわったことが明らかになった(注 1)。2014 年 3 月 1 日、文京区文化財審議委員会で文化財指定の審議が行われ、文化財に指定された(注 2)。2015 年度、公益財団法人朝日新聞文化財団 平成 27 年度文化財保護助成「徳川齊昭建立「向岡記碑」の 3D デジタル測量による記録保存と碑の周知化への取り組み」によって「向岡記碑」の 3D デジタル測量、碑の保存状況の調査を行った

表1 向岡記碑建立から文化財指定まで

年代	事項
元和8年(1622年)	水戸藩、下屋敷拝領(後の中屋敷)
文政11年(1828年)	徳川齊昭、「向岡記」を記す
文政12年(1829年)	徳川齊昭 第9代水戸藩主就任、以後水戸八景碑、弘道館記など建立
明治2年(1869年)	明治政府、駒込邸を公収
明治5年(1872年)	東京府、駒込邸跡地を「向ヶ岡弥生町」と命名
明治17年(1884年)	後に弥生時代、弥生土器の名称由来となる土器、向ヶ岡弥生町内で発見される
明治20年(1887年)	浅野侯爵邸(～昭和16年(1941年))、向岡記碑浅野家の管理に
昭和23年(1948年)	浅野邸跡地、東京大学敷地となる、向岡記碑東京大学の所蔵に
平成17年(2005年)	向岡記碑の調査開始
平成18年(2006年)	文京ふるさと歴史館特別展「徳川御三家江戸屋敷 発掘物語 水戸黄門邸を探る」
平成19年(2007年)	向岡記碑の共同研究開始(「向岡記」碑研究グループ)、東京大学130周年記念事業「知のプロムナード」に伴う学内整備事業で向岡記碑の保存修復開始、水谷仁「学門の歩きオロジー 弥生土器の発見—弥生時代を発見した若者たち」『ニュートン』2007年12月号 に浅野地区と「向岡記」碑が紹介される
平成20年(2008年)	原祐一他 2008『「向岡記」碑 保存修復報告書 「向岡記」碑の研究』、碑の保存修復と設置終了、茨城県立歴史館特別展「幕末日本と徳川齊昭」碑文の拓本展示、向岡記碑の保存修復終了
平成23年(2011年)	東日本大震災による向岡記碑の破損なし、東京大学総合研究博物館春季企画 特別展示「弥生誌 向岡記碑をめぐる」開催、向岡記碑をめぐる」・松戸市戸定歴史館企画展「徳川昭武の屋敷慶喜の住まい」開催
平成24年(2012年)	茨城県常陸太田市真弓町 真弓山寒水石鉱山・真弓神社の調査
平成25年(2013年)	文京区教育委員会による向岡記碑の調査
平成26年(2014年)	文京区指定文化財指定告示(3月1日)、浅野地区・弥生地区見学者数3,236名(4月4日現在)
平成27年(2015年)	浅野地区・弥生地区見学者数3,236名(6月27日現在)

注

1. 吉田令世 1830「水の一すち」茨城大学附属図書館所蔵菅文庫、刊本は近藤圭造編 1886『存採叢書』25
2. 文京区企画政策部広報課「区報ぶんきょう」2014.4.25 No.1594 文京区発行

参考文献

原祐一、石原道知、堀江武史 2007「本郷区向ヶ岡弥生町における発掘調査と文化財保護 公開の歴史 そして、弥生時代名称由来土器発見地」文化財保存修復学会第29回大会

原祐一、石原道知、堀江武史他 2008「向ヶ岡弥生町の弥生土器発見地と土器の名称由来となった「向岡記」碑の保存修復と公開」日本考古学協会第74回(2008年度)総会発表要旨 pp.64-65

原祐一、石原道知、堀江武史他 2008「徳川齊昭建立「向岡記」碑の保存」文化財保存修復学会第30回記念大会発表要旨 pp.96-97

原祐一他 2008『「向岡記」碑 保存修復報告書 「向岡記」碑の研究』

原祐一他 2009「P107 弥生時代名称由来「向岡記」碑の保存修復・設置場所の検討と活用」文化財保存修復学会第31回大会発表要旨 pp.288-289

塩原都、飯村博 2011「名碑「向岡記」」東京大学史紀要第29号 pp.1-15 東京大学総合研究博物館、東京大学埋蔵文化財調査室 2011『特別展 弥生誌 向岡記碑をめぐる』

原祐一、町田聡 2014「向岡記碑の文京区文化財指定までの経緯と今後の課題」一般財団法人文化財保存修復学会第36回大会 於 東京 研究発表要旨集 pp.154-155

# 向岡記碑の保存修復

《修復中に考えた事》

石原 道知

武蔵野文化財修復研究所

## はじめに

弥生町の名称由来となった「向岡記碑」の保存修復と修復中に考えたことをここに記したい。碑の立つこの地は、江戸時代に水戸藩の屋敷だった場所である。

碑文の内要は江戸幕府最後の将軍の父、徳川齊昭がこの春、弥生の季節の情景を表したものだ。この碑文の中に「夜余秘」万葉仮名で書かれた文言「やよい」から「弥生」という町名が付く。その弥生町から出土した土器が「弥生式土器」と呼ばれ、やがてその時代を「弥生時代」と称する。弥生時代の名称は知っていても、その名の由来がこの地域、この碑にあったという事を知ると驚く人は多い。この碑の保存修復の実際を使用材料や特に苦労した面を記した。それから修復をとおして考えた事をこの機会に記そうと思う。特に文字の記された石という点で言葉とは何か。という点を中世の歴史資料から日本人の言葉に対する感覚を考えたい。それからモノが劣化するという事に対する感覚の違いが世界の文化でどれだけの差があるのか文化人類学の論文から考えてみる。そして同じく世界の文化を比較して時間概念がいかに世界の諸文化で差異があるのかを社会学の論文から考えたい。

## 保存処理の概要

碑の大きさは、高さ約1.5m 幅約1m 厚さ約11cmほどである。石材の産地は常陸太田市真弓山で産する材で寒水石と名前がついている。建立者の徳川齊昭が水戸藩ということで、地元水戸藩の材料にこだわったのであろう。この点と碑文の内要（向岡を愛している）ことから地元愛、地域愛の深い人物であったことが伺える。今回は珪素分を主成分にする化学薬品で石質を強化し、復元的作業は行わず、洗浄と現状の維持を主目的とした。

また今後の保存には雨水が直接当たる場所は危険であると考え碑の移転が必要であると判断。浅野地区情報基盤センターの屋根のある吹き抜け部分に説明文と共に設置し公開し



▲写真1 碑の現状写真

た。

## 保存修復前

暗くおい茂った草木の根元に無造作に積まれた木の枝。落ち葉の吹きだまりになっている。そこにひっそりと人知れず、うす黒く汚れた石碑は立っていた。碑の場所は工学部の裏の言問通りから塀を隔てて数メートルという位置である。たぶん通りを行き交う車の煤煙が付着している。碑の横には大きなタンクが見える。しばらくすると、このタンクに窒素ガスと書かれた大きなトレーラーが横付けしガスを供給している。



▲写真2 保存修復前の状況

る、充填時に余剰のガスが漏れているのか白く蒸気となって間欠泉のように吹き出ている。蒸気化しているということは液体窒素だったのだろうか。その蒸気が「向岡記碑」に吹きかかる。誰もが知っている「弥生時代」の名称由来になったモノとしては取り扱われ方が乱暴でなげやりな印象を持った。

## 工程

### 1、クリーニング

水とオスバン液 0.1%~0.05%で軽く洗浄した。かなり黒いスス状の汚れが付着し柔らかめの歯ブラシで軽くブラッシングし洗浄するとやや黒味が取れた。背面にツタ状植物の吸盤がたくさん付着しており、一つ一つ竹串で剥がしていった。強固に張り付いていてこの作業は思ったより時間がかかった。オスバン液とはベンザルコニウム塩化物の水溶液で手指の殺菌、傷口の消毒に使われる。今回は石表面の殺菌と保存処理後のカビの繁殖防止のためこれを用いた。

### 2、石材強化剤の含浸

層状に隙間が生じており、石材強化剤（変性エチルシリケート SS-101）を柔らかい刷毛で塗布し含浸させた。含浸することによって石碑全体の強化を目指した。

石材強化材、変成エチルシリケート SS-101 とは、製造元のコルコート株式会社の技術資料によるとシリコン系撥水性強化材とある。



▲写真3 クリーニングの状況

劣化、脆弱化した石造文化財を固定強化するための薬剤である。石材の風化要因には温度変化、氷結、結露、雨水の吸収乾燥による膨張と収縮、振動など物理的要因。苔、藻、カビなどの繁殖によって表面が浸食される生物要因。昨今の地球環境悪化のため酸性雨などの作用で石の結合を成していると思われる珪素質や炭酸カルシウムなどが溶かされていく化学的要因が考えられる。こうして風化した石材表面に  $\text{SiO}_2$  分を添加し補ってやる薬剤である。石材表面は水蒸気、空気がわずかに出入りし水も吸い込む。そのため石材は呼吸をしていると言われる。その呼吸を止めずに防水効果を持つことが必要だ。SS-101 は変成エチルシリケートの加水分解物の有機溶媒液で石材の呼吸を止めること無く適度な撥水性付与し、低温（ $-20^{\circ}\text{C}$ ）から高温（ $105^{\circ}\text{C}$ ）で安定し石材の耐久性を向上させる。



▲写真4 ツタの吸盤状況

### 3、碑の手拓

碑の再拓本作業を行った。拓本の目的は、予定されている碑の掘削、移動作業時に、万が一碑が破損した後に拓本を碑文修復の目安とするためである。また、拓本は表装して展示に活用する。碑の手拓は横山淳一、拓本の表装は垂水李が行った。

### 4、亀裂の補強充填

碑の石材「寒水石」は側面に縦方向の亀裂が認められ、層状に剥離する懸念があった。この部分の補強をしなければ碑を移動させることが難しいと判断し充填することとした。移動は、碑の基部がコンクリートで固められているのでこれを除去する為と設置場所はこことは違う場所となるためである。



▲写真5 ツタの吸盤除去

本来は含浸で使用した SS-101 と同じ素材を充填する方法が最良と思われるが、碑の移動スケジュールは数日後に決まっており、充填補強後すぐに強度を高めなければならない。SS-101 は基本的には石材の基質を強化する材料であり剥離しそうな部分の接着強度を高めるには不向きと思われる。従って充填後数日で硬化し接着力も高いエポキシ系の合成樹脂（アラルダイト XN-6504）を充填することにした。

## 5、碑の基礎部の除去

基礎部にはコンクリートが流し込まれていた。碑文の行の最後の文字に、コンクリートが被覆し文字を隠していた。ここでも扱いは乱暴な印象である。従ってこの基礎部のコンクリートを除去する事とした。この作業は小林石材（作業場所：港区賢宗寺敷地内）が行うため。石碑を移動した。

慎重にコンクリートを取り除くと寒水石本来の白色が現れた。寒水石という名のとおり、白く美しい。地上に出ていた上部は「言問通り沿い」の排ガスの煤煙でよごれたのだろうか。ススで灰色となっていた。この部分の色差は目立つので本来は隠して設置したい部分ではあるが、この部分に文字が掛かっているのではできない。従って今でもこの部分は碑の下部に観察できる。前回の石碑の設置当時にはこの文字を考慮せずにコンクリートを流し込まれた。とりあえず「倒れなければいい」程度の意識であったといわざるをえない。隙間が広がっている部分や欠落が予期される部分に粘土状の合成樹脂（アラルダイト XN6504）を充填した。充填後はアクリル塗料で石の色あいに補彩した。

## 6、設置

設置工事は2008年8月8日であった。

設置場所は東京大学埋蔵文化財調査室と大学の関係機関との協議で決められたが、保存処置を担当した者としての要望は、できるだけ風雨の影響が少ない場所を要望した。数カ所の候補の中から、浅野地区情報基盤センターの屋根のある吹き抜け部分に設置されることとなった。

なお、この碑の修復と研究は、保存修復、歴史学、金石文、石材、展示の各分野と協議を行って進めた。堀江武史（府中工房）、小林善行（株式会社小林石材）、塩原都（日



▲写真6 碑の移動



▲写真7 コンクリートの除去



▲写真8 コンクリート除去後部分

本石造文化学会)、垂水李(表具工房李)、原祐一(東京大学埋蔵文化財調査室)、森田信博(加藤建設株式会社)、横山淳一(日本石造文化学会)の共同成果である。

## 碑の移転後

碑の設置後NHK大河ドラマ「篤姫」の影響で(徳川斉昭が重要人物として描かれている)鹿児島の中学生が見学に来た。都内高校の校外授業にも利用され近代日本史の理解に大いに活用されている。気軽に大勢の人に見学していただくことが可能な場所に設置され、解説パネルもこの碑が重要な物であることを伝え理解を深めつつ無味乾燥となりがちな学校の校舎に一味ちがう感を与えていると思う。

今後はこの碑の重要性「弥生時代」名称由来と「江戸幕末」と時代を行き来できる文化財として未永く活用されることを願っている。

## 石碑と言葉

文化財修復士として修復中に石碑とは何かを考えてみた。簡単に一言で言えば石に言葉が彫り込まれたモノとなる。では石とは何か。一般的な感覚では、硬さ、重さ、不変性、安定性などのイメージがあろう。重さ、硬さから来るイメージは不動の永遠性となる。この永遠性という物性を持つモノに言葉が刻まれる。このように石を使用するということは、できるだけ後世の人、できるだけ多くの人に見てもらいたいという建立者の願いだろうか。

古来より日本人は言葉や文字、文書など、どう感じてきたのだろう。有名なところでは万葉集に出てくる言霊という感覚であろう。言葉、文字を大事にする因習、強い「魔性」拘束する力というのは、現代でも思い当たる。しばしば自殺に追い込まれる人の中には言葉の暴力が原因の人もあるかもしれないし。今では、パソコンで簡単に名刺が作れる時代なので、あまりありがたみがなくなってきたかもしれないし、もうあまりみられない習慣かもしれないが名刺の裏に裏書きをすることが簡単な契約書になっていたこともあったと思いつく。

この向岡記碑は、江戸時代の終わりに建立されるが、文の持つ力とは、言葉の力とはどのようなものだったのか、この時代より少し前の中世の事例ではあるが瀬田勝哉先生の論文「神判と検断」から考えてみたい。

「検断」とは中世における警察や裁判や治安維持に関する諸々のことで「神判」とは神の意によって犯罪人を裁く方法で、犯人を確定するための証拠の中でも重要



▲写真9 碑の設置

な事項だった。神判の例として、落書（らくしょ）が上げられている。これは匿名の投書で、誰が書いたかわからない拾った文に神の意志を見出すというもの。言葉の持つ呪術性をいかに強く感じられていたかがうかがえる事例である。

落書には立札、貼り紙、落し文などいくつかの形態があり、この中で最も古い形は落し文である。続日本記に749年に匿名の投書が路頭に投げられたことが記述されている。このことから落書の語義が「文を落とす」にあったと考えられる。p61

落書とは近世では捨文・捨訴といわれており「落とす」は「捨てる」と通じている。落とした後は、それを「拾う」という行為がセットになっているのだ、なぜわざわざ「落す」のか思い起こされるのは「捨て子」「拾い子」の風習である。

「子供がよく育たない家の子などは、生まれてすぐ仮に辻や川、家の前などに棄て、あらかじめ頼んでおいた人や通行人にひろってもらい、拾い親とする習俗が古くからあった。これは親が身につけた厄などの悪条件が子に移らぬように仮に親子の縁を切り、子供の健全な生育を願って行なう呪術的な儀礼といわれている。このように捨て子・拾い子には、いったん世俗の縁を断ち切って俗悪なものを洗い去り、再生した子との間に新たな関係をとり結ぶという儀礼的な意味があった。」 pp61-62

秀吉の子、秀頼が幼名、拾丸（ひろいまる）だったことや最初の子、豊臣鶴松は幼名を棄（すて）といったことには名前にも「捨て」を付けることが縁起のいいという意識があったのであろう。

拾う習俗について、中世では社寺参詣の行き帰りの路地で「拾い物」をすることが非常に喜ばれたようで、神からの贈り物として拾う民俗が広くあった。このことから「落とし文」についていうと。

「匿名の書をいったん「落す」ことによって世俗との縁を断ち・略・聖なる神の意志のこもった書として、再び「拾われる」慣行があったということになる。」 p62

落書はしばしば木札に書いて立てられた。木札は土地の帰属を示すために立てるという慣行があつて札を立てた所には誰も近寄らなかつたという事例が上げられている。

札の神聖さ、呪術的な力ということが考えられる。おそらく木札に書かれた文字の呪術的な



▲写真10 情報基盤センター内に設置され碑。千葉県松戸市戸定歴史館主催、松戸シティガイド研修会（2009年9月16日）。

力を恐れたのであろう。

千葉県佐倉市の国立歴史民俗博物館には織田信長が岐阜城下の楽市場に出した制札（せいさつ）のレプリカが展示されている。この制札は、こげ茶色に変色した木製の札であるが、これは実際に当時、屋外に掲示されていたために起こった変化であり、裏面には柱が付いていた部分がかっきりと白く残っている。その部分が現存するので、柱に付けた状態での当初の姿を復原することも可能だった。歴博の展示では実際に現状の複製と復原模造的なレプリカの2種類が展示されている。

これによって、信長が岐阜に入城して城下に人を呼び集めるために制札を立てたときの状況を考えると、制札がその役目を終えて柱からはずされ、しかし町にとっての重要な資料として当時の住人たちによって大事に保管されてきたという、この間の歴史を考えることもできる。と「原品と複製の間で」という論考で小島道裕先生が（国立歴史民俗博物館）述べている。この制札も文化財として現代まで残ったのは、おそらく文字という特別な呪術的な側面も町の住人が粗末に扱わなかった理由ではないだろうか。

「また江戸幕府が法令の告知などに用いた「高札」も、内容ではなく高札自体が畏敬の対象であり、高札場は神聖にして侵すべからず場であった。」 p63

「制札が将棋の駒形になっているのは、中国で「圭」という駒形の玉器が支配権のシンボルを取り入れたものという。」 p63

文字が読める読めないにかかわらず文字の書かれた札は支配権のシンボルであった。

以上のように書かれた文字は特別な力を持っていたと当時の人は思っていたようだ。パソコンが普及し誰でも文字を印刷できる現代でもそれはあまり変わらない。契約書や登記簿謄本など私たちは文字に拘束されている。

### 物質の劣化に対する文化の違い

文化財修復士として保存処理するにあたって恒久保存したい、という永遠性への切望は当然の気持ちかもしれない。だが、あえてここでそれは本当に正しいのか立ち止まって考えてみたい。筆者は石造文化財の保存処理を複数例行ってきた。その中で考えさせられることは寺社の管理する石仏や石塔を処理する時である。すでに崩壊直前のモノについては、ほとんど悩みなく施主と意見の一致をみて保存処理方針を立てることができる。つまり劣化を止める処置、現状維持。劣化を促進させる苔等の石表面に繁殖する植物を除去することである。ところが日本では「侘び」の文化など「苔むす」ことを愛でる、西洋にはない価値観がある。今回、向岡記碑を強化処理に使用した薬剤、変成エチルシリケートは西洋の科学技術であり処理方法の基本理念も西洋文化的といえよう。ここで単純に西洋文化的文化財保存法を盲目的に取り入れてしまえば悩むことも無い。

文化人類学から一つの事例を引いてみたい。九州大学の古谷嘉章先生は「物質性的人类学に向けて」という論考の冒頭で「アハユダ」とよばれる木彫像にまつわるエピソードを紹介する。これはアメリカ合衆国南西部に住むズニの人々の儀礼のための神像である。この神像は各地の博物館に収蔵されていたのだが、1970年代末から返還を要求されはじめた。多くの博物館は恒久保存を可能にする施設を用意することを条件に長期貸与を申し出たが、それに対してズニの人々は、「保存という非インディアン的価値観と仮に衝突することになっても、それら儀礼用の品々を、ズニの習慣にしたがって使用し処分する権利がある」と主張した。ズニの人々の考えでは、それは、野外の祭祀場に置かれ、風雨に晒され、最終的には朽ち果てて土に還るべきものである。と考えている。もちろん日本の侘びがこれと同じだといいたいわけでは無い。ここでいいたいのは永久に保存するという考え方が決して普遍的なものではない、ということである。だとすれば寺社の石造文化財を西洋的な保存処置法のみを考えただけでは足りないこともあるのではないか、住職がせっかく生えた苔を取りたく無い。という気持ちにも寄り添う必要はあると思う。アハユダほど短い時間で朽ち果てないとしても、日本人はたとえ石でも長い時をへて土に還ると。どこかで思っているのではないか。西洋文化のように永遠に保存したい。では無く数百年の尺度では石は経年変化することを容認しているのかもしれない。

文化財の修復士は各種の処置を行なう場合、恒久保存、現状維持、元に戻す処置等々いつも時間と向き合っている。今回、向岡記碑については現状維持を念頭にススで汚れた碑面の汚れについてはできる限り汚れる前の時間に戻すよう努力した。表題の飛白体で書かれた「向岡記」の三文字は現在風化が進んで霞んでしまっている。この部分の時間を巻き戻すことはできないことが残念でならない。だが「形有る物はいつかは壊れる」という自然に還っていくことが自明の理だとすればしかたのないことにも思える。考えてみたらよくある石碑の文字面は平滑に磨かれている事が多いが、この碑は無加工の表面に直接文字を刻印している。遠目には一見ただけでは自然石と区別がつかない。もしかしたら自然に朽ち果てる事まで考えて建立されているのではと深読みしてしまう。文化財は時間と共に劣化する、次に時間について考えてみたい。

## 時間論

日時計や水時計などの自然のリズムの時計を使っていた人たちが、13～14世紀に、西洋の各地で機械仕掛けの時計を発明した、それがやがて市庁舎の塔に据え付けられて、権威の象徴のようになり、いつしか人間は時間に捕らわれ始めるようになる。(角山栄 1984)

真木悠介『時間の比較社会学』という本の中で、時間という概念が登場する背景には、共同体が他の共同体と交渉することによって始まった。共同体同士が、同じ時間という共通する概念を持たない限り出会うことができない。地球の自転を24分割して使うようになった、と述べる。そして時間意識は a 近代社会の直線的な時間、b ヘブライズム (キリスト教的) の線分的な時間、c ヘレニズム (ギリシャ風) の円環的な時間、d 原始共同体の反復的な時間。という4つの類型に分け様々な時間概念を紹介する。大まかにわけると a 近代と b キリス

トは「不可逆性の時間」でcギリシャとd原始共同体は可逆性の「繰り返す」時間となる。前述アハユーダでは土に還っていくが、この感覚は土地に愛され土地を愛する人たちのこと。あるがままの自然と共に亡びることを選択したアメリカ大陸の心やさしい原住民たちの言葉を真木は紹介する。

「われわれの神々は死んだのだとあなたがた（白人）はいう。それならばわれわれもまた、われわれの神々といっしょに亡びよう。」 p180

それに比べ、ユダヤ教やキリスト教的時間感覚では旧約における砂漠がシンボルとなるように、自然をよるこびとしてではなく呪いとしてはじめから感じ続けてきた民族。

この二つの文化では、おなじく歴史の最も過酷な受難の民という共通性があるというのに帰結する答えが真逆になる。西洋文明では始めと終わりがあがる。決して時間は回帰しないということが実は唯一の救いとなる。二度と同じ不幸を繰り返さないというわけである。

それでは現代日本人はどのような時間の中で生きていて、未来はどうなるのか。社会学者の宮台真司は円環的時間、あるいは反復する、繰り返す時間の中で淡々と生きる時代をわれわれは迎えていると『終わりなき日常を生きる』という本で示している。

この石碑の文言中に「弥生」というキーワードがあり、この語が遠因となり「弥生時代」という呼称ができた。東京大学埋蔵文化財調査室の原さんからの依頼でこの地で検出した弥生時代の墓「方形周溝墓」を保存し土器を修復した。修復依頼の動機は「弥生時代」名称の由来である弥生町遺跡の資料だったからである。江戸末期建立のこの石碑がなければ、この地名はつかないし、この地に暮らした弥生時代人が墓をつくったり土器をつくったりしなければ、弥生町遺跡も無い。弥生時代名称由来の碑でなければ保存修復の計画が起きなかったかもしれない。ここでは時間が弥生時代と江戸時代と現代で、おりたたまれているようである。

## 最後に

碑文の解説と刻銘復元は横山淳一氏、校正を塩原都氏がを行い 2008 年の碑の研究報告書に碑文の内容を記している。その研究成果によると「大和国や近江の国は昔から和歌が詠まれ、名所が多い」とし「文化とは何か」と問いかけをしているかのように解釈できる。つまりここでは和歌がそれを指すのだが、文化は言語で記すことで作られていく。名所はつくっていくものである。とっているようである。受動的でなく能動的に自らが文化を作っていくとする果敢な姿勢である。

私は、弥生町遺跡関連の「向岡記碑の保存処理」「方形周溝墓の剥ぎ取り保存」その方形周溝墓から出土した「土器の修復」に関わってきた。

文化財の保存修復は、多くの関連分野の知識や経験を必要とする。国際博物館会議（ICOM）の1984年のコペンハーゲン憲章では「修復に不可欠である、他分野の専門家と連携をはかることができる」ことが文化財保存修復士の重要な資質として指摘されている。文化財の保存修復

という仕事は、一個人の知識や経験で行えるものではない。人類の貴重な財産である文化財を扱うので様々な分野の専門家の深い知識や経験が必要であり助力を得ることが必要不可欠になると考えている。

#### 参考文献

- 石原道知、小林善行、塩原都、関岡裕之、垂水李、堀江武史、原祐一、森田信博、丸茂一美、横山淳一 2008 『「向岡記」碑 保存修復報告書 「向岡記」碑の研究』原祐一編修、発行
- 原祐一、石原道知、堀江武史、小林善行、森田信博、垂水李、横山淳一、塩原都 2009 「弥生時代名称由来「向岡記」碑の保存修復・設置場所の検討と活用」文化財保存修復学会第31回大会 in 倉敷 2009年6月13・14日倉敷市芸文館ポスター発表要旨
- 東京大学埋蔵文化財調査室 編 2009 『浅野地区Ⅰ』東京大学埋蔵文化財調査室
- 東京大学埋蔵文化財調査室編 2009 『浅野地区Ⅰ』東京大学埋蔵文化財調査室
- 石原道知 2009 「Ⅱ 「向岡記」碑の保存修復について」東京大学埋蔵文化財調査室『東京大学埋蔵文化財調査室発掘調査報告書9 東京大学本郷構内の遺跡 浅野地区Ⅰ 情報基盤センター変電室1地点 工学部風工学実験室地点 工学部風工学実験室支障ケーブル地点 工学部風環境シミュレーション風洞実験室地点 工学部武田先端知ビル地点』pp. 201-206
- 『弥生誌-向岡記碑をめぐる』2011 堀内秀樹・西秋良宏 編集 東京大学総合研究博物館
- 瀬田勝哉 1987 「神判と検断」『日本の社会史 第5巻 裁判と規範』岩波書店
- 古谷嘉章 2010 「物質性の人類学に向けて」『社会人類学年報』pp. 1-23
- 角山栄 1984 『時計の社会史』中公新書

# 向岡記碑の3次元測量

田子寿文  
(株) アイ・テック

## 1. 使用機種を選定

本業務では、レーザーを用いた非接触の3次元測量をおこなっている。レーザー計測といっても下表のような多様な手法が存在しているので、使用機器の選定をおこなわなければならない。今回の測量では、

- ② 周辺地形……………仮安置場所の形状を把握
- ② 記念碑（石材）…刻印された文字・装飾の解説の観点から、それぞれの計測距離、取得できる分解能（精度）を勘案し機種を選定しておこなっている。

文化遺産の管理に利用されるレーザー計測の方式

レーザー計測の方式	計測の対象	一般的な精度／計測距離
三角法方式のレーザースキャナー		
ターンテーブル式	小さな対象物（現場から持出せるもの）。レプリカ制作に適したデータが取得できる。	50 ミクロン／0.1～1メートル
アーム搭載式	小さな対象物および表面。現場で使用できる。レプリカ制作に利用できる。	50 ミクロン／0.1～1メートル
ミラー／プリズム式	現場の小さな対象物および表面。レプリカ制作に利用できる。	1 ミリメートル以下／0.1～25メートル
タイム・オブ・フライト方式の地上レーザースキャナー	図面作成（他のデータも併用）ないしはサーフェス・モデル作成のための建築物のファサードおよび屋内空間の計測に適する。	100メートル以内の距離で3～6ミリメートル／2～100メートル
位相差方式の地上レーザースキャナー	図面作成（他のデータも併用）ないしはサーフェス・モデル作成のための建築物のファサードおよび屋内空間の計測に適する。	2メートル以内の距離で5ミリメートル／2～50メートル
航空レーザー計測	地形（森林地区を含む）の鳥瞰。	0.15メートル（計測時のパラメーター設定に依る）／10～3500メートル

(Barber, DM, Dallas, RWA and Mills, JP 2006, 「Laser scanning for architectural conservation (建築物保存のためのレーザー計測)」, J Archit Conserv 12, 35-52 の翻案による)

## 計測で想定される計測諸元

測量範囲	作業計測距離 (m)	分解能(精度) (mm)	レプリカ作成 (将来)	使用レーザー scanner
周辺地形	10～30	5～30	想定内	タイム・オブ・フライト又は位相差方式
記念碑（石材）	0.5～2.0	0.5～3.0	想定内	三角法方式

## 決定した計測機器

メーカー名	機種名	計測の方式・諸元	写真	備考
ファロー	3Dレーザー scanner Focus 3D	位相差方式 最大計測距離：330m 最小計測距離：0.6m 最小計測ピッチ：1mm (通常2mm程度)		地形測量に適用
コニカミノルタ	3Dデジタルカメラ VIVID9i	三角法方式 最大計測距離：2.5m 最小計測距離：0.5m 最小計測ピッチ：0.1mm ※ピッチは使用レンズにより異なる		記念碑測量に適用

## 2. 地形測量

地形測量については3Dレーザー scannerを使用し計測をおこなった。3Dレーザー scannerは座標杭上に設置したターゲットのデータを取得することにより、公共座標との関連づけが可能であるが、本業務では任意座標を仮定して測量を実施した。



測量状況写真



3Dレーザー scannerから得られたクラウド（点群）データ

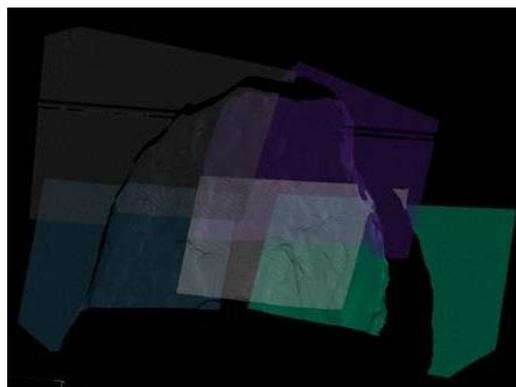
### 3. 記念碑の測量

記念碑の測量については3Dデジタイザを使用して測量をおこなった。3Dデジタイザについては計測範囲が小さいことより、同じ器械点から複数回スキャンをおこない、その後合成をおこなっている。

なお、3Dデジタイザは任意座標の取得しか出来ないことから、各部材の指定座標への変換は3Dレーザースキャナーデータとの面形状偏差計算により実施している。



3D デジタイザによる記念碑の測量状況写真



3D デジタイザから得られた合成前の仮位置合せメッシュデータ

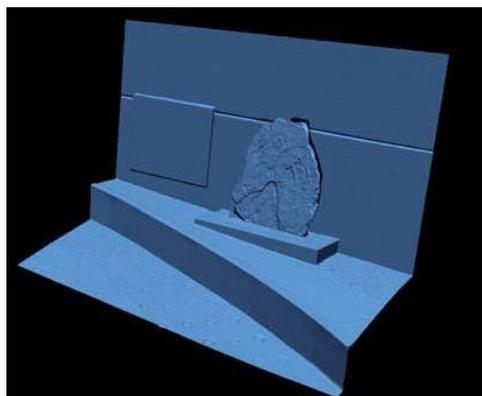
### 4. データ処理

#### (1) 3Dレーザースキャナーのノイズ処理、ポリゴンモデル化

3Dレーザースキャナーより得られたクラウド(点群)データに対し、ノイズ(不要点)の削除を実施する。その後3Dレーザースキャナーの特徴でもあるクラウドデータの厚みに対しスムージング処理を実行後、ポリゴンモデル化を実施し、適切な3Dモデルデータを作成した。



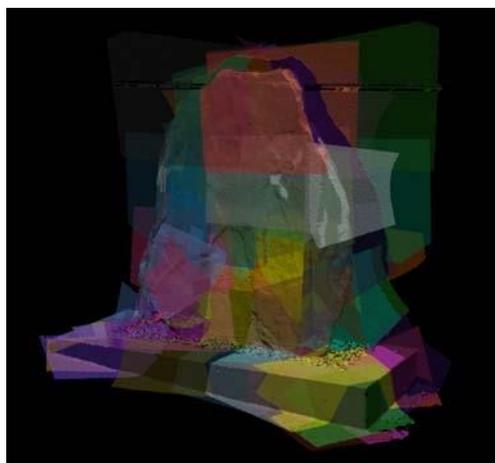
クラウドデータのノイズ処理



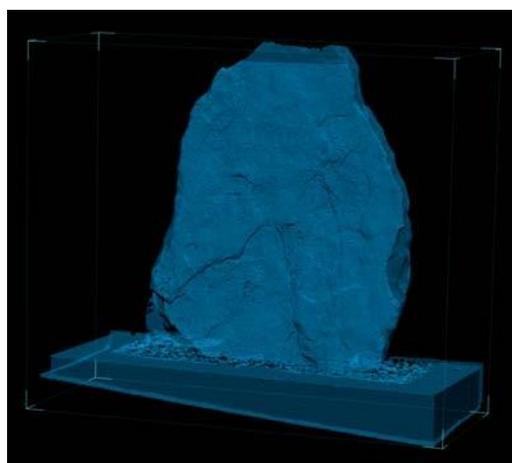
ポリゴンモデル化実行後

## (2) 3Dデジタルデータの位置合せ、合成（1シェル化）

3Dデジタルデータより得られた、複数のスキャンメッシュデータ（シェル）に対し、3D加工ソフトウェアにより各データの重なり代に対し面形状で計算を実施、正確な位置に修正する。位置合せ完了後、1つのシェルに合成し、記念碑の3Dモデルデータを作成した。

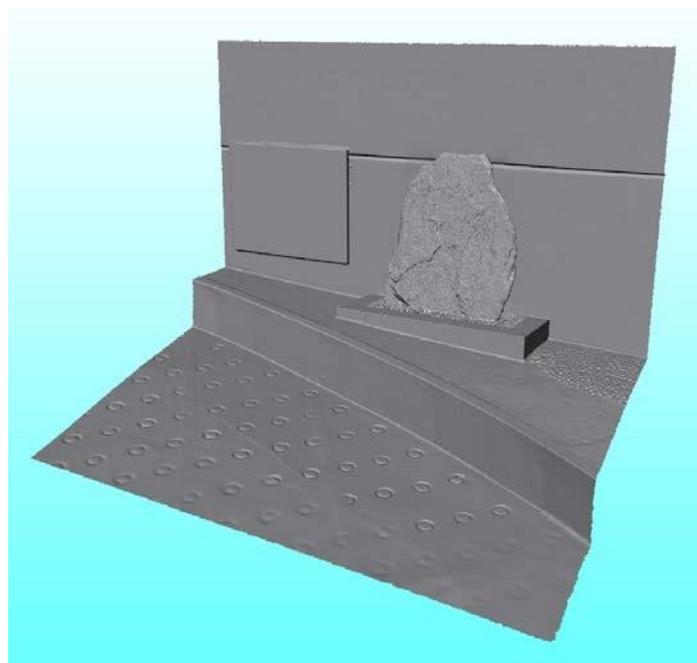


各スキャンデータの位置合せ1



シェル化された3Dモデル

(3) 3Dレーザースキャナデータと3Dデジタルデータとの合成 周辺地形および記念碑を1データとして再現するために、3Dレーザースキャナデータと3Dデジタルデータとの合成処理を実施した。これにより詳細な3Dモデルを作成している。



合成が完了、1シェル化された記念碑データ

#### (4) テクスチャ処理

現地で撮影したデジタル写真と 3D モデルの相互に対応点（評定点）を設定し、位置合わせをおこなう。その後写真画像を 3D 面に与え、テクスチャ付き 3D モデルを作成する。

これにより、より現実に近似したバーチャルモデルとなる。

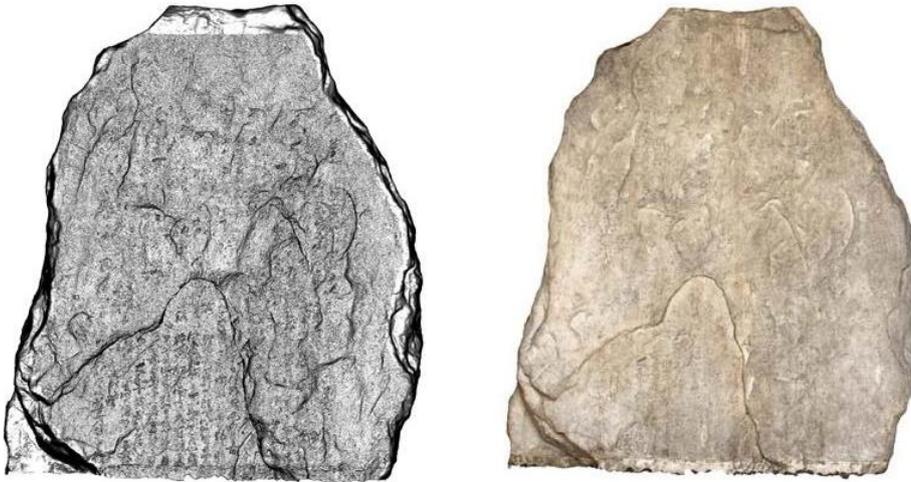


テクスチャ処理を実施した 3D モデル（記念碑）

## 5. 図面作成

### (1) オルソ画像の作成

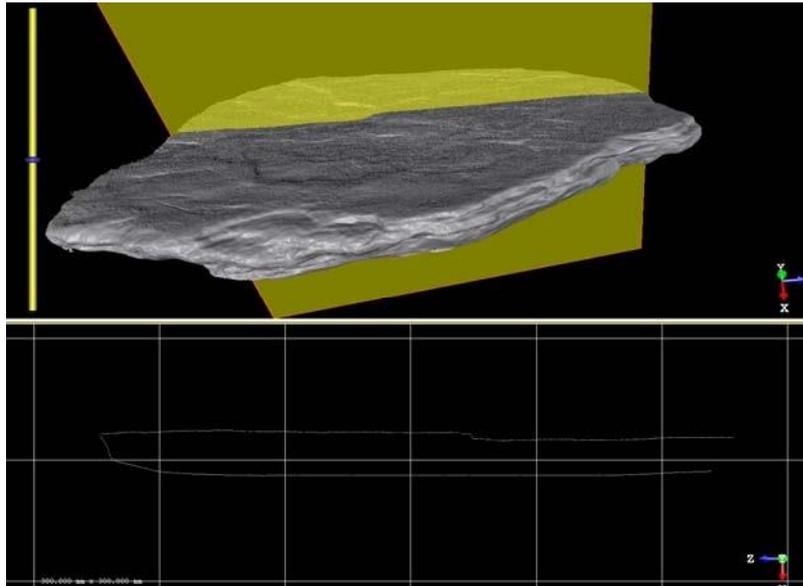
作成された3Dモデルに、シェーディング(陰影)を最適な状態で実施し、オルソ(正斜投影)画像を作成する。これら作成された画像(tiff形式)は、1/1のスケールを持つ実測図となる。基本が1/1であることから任意の縮尺に指定をすることは簡単であり、利用しやすい。なおオルソ画像は、色情報に視覚が左右されにくいグレースケールモデルと現地の色彩情報が確認できるテクスチャの2通りを作成した。



オルソ画像(左がグレースケール、右がテクスチャ)

### (2) 断面図(カットライン)の作成

3Dモデルより断面抽出位置の確認をおこない、指示された位置でカットラインデータを作成した。そのままのデータを汎用CADに貼り付け、断面図としている。



断面作成時の3D加工ソフト画像



# 向岡記碑の研究 徳川齊昭と向岡記碑

原 祐一

東京大学埋蔵文化財調査室

「向岡記碑」は水戸藩駒込邸（中屋敷）の庭園（現、東京大学浅野地区）に建立された後の水戸藩9代藩主徳川齊昭が揮毫した碑で、碑の置かれた駒込邸の庭園は中国の西湖に見立てた不忍池を借景した庭園であった（図1 注1）。同じく西湖に見立てた水戸の千波湖を中心とした地形は不忍池周辺と同じ立地で、水戸藩の施設の配置は、不忍池周辺の武家屋敷、寛永寺、孔子廟等の配置（注2）を模している。（図4～7）。齊昭の指示で制作された、信義筆『向岡記』（徳川ミュージアム蔵）（図2）と水戸藩士で南画派の立原杏所筆『向岡花甸図屏風』（図3 注3）に駒込邸庭園の景観が描かれている。両作品とも画風は異なるものの、桜の咲いた季節（弥生）駒込邸庭園の景観を描き『向岡記』には「向岡記碑」描かれている。碑文は飛白体で書かれた題額の「向岡記」と万葉仮名六三八字合計六四一字からなる。向岡（向ヶ岡）とは不忍池を挟んだ忍ヶ岡（上野の岡）から見える岡の名称で、地質学上は本郷台地の一部で、清水観音堂から向ヶ岡の景観を検討すると北は団子坂から南は駿河台の突端までが向ヶ岡と考えられる（図4 注4）。碑文には向ヶ岡の歴史、桜の咲く向ヶ岡、忍ヶ岡の景観を文政11年（1828年）に詠んだ和歌が刻まれている。8代藩主で齊昭の兄、徳川齊脩が水戸徳川家の分家、守山藩松平家上屋敷（現、筑波大学東京キャンパス）に建立した「徳川齊脩の漢詩碑」と「向岡記碑」（注5）の石材は常陸太田の真弓山産出の寒水石製（大理石）で、「向岡記碑」は齊昭の建立ではなく齊昭が碑文を揮毫、碑の建立に関わったというのが正しく「向岡記碑」は文政11年（1828年）頃に建立されたと考えられる（注5）。「向岡記碑」の揮毫後、藩主に就任した齊昭は天保の改革と呼ばれる藩政改革を行う。齊昭の政治的画期は『水戸市史 中巻（四）』（註6）のなかで一～五に区分される。

- 一. 部屋住時代（藩主就任前） 文政12（1829）年10月、藩主となる30歳まで。
- 二. 藩主時代 文政12（1829）年10月から弘化元（1844）年5月、45歳で藩主の職を退くまでの15年間。3期に分かれる。
- 三. 退隠時代 弘化元（1844）年5月から嘉永2（1849）年3月13日、齊昭の長子、十代藩主慶篤が若年（18才）のため、藩政参与を許されるまで。45才から50才までの5年間。
- 四. 藩政参与時代 安政5（1857）年7月、幕府から急度慎を命ぜられ、駒込邸に幽居となるまで。50才から59才までの9年間。
- 五. 蟄居時代 安政6（1858）年8月27日安政の大獄の拡大により、急度慎が永蟄居に変わり、水戸城内の一室で終身幽閉となる。

表1に齊昭の政治と「向岡記碑」に関する事項、齊昭の和歌をまとめた。「向岡記碑」には石碑の建立と名所の創出に関する記述があり、藩主就任後に行った水戸八景碑建立につながり、寒水石が碑などに使用される。碑に登場する太田道灌、源頼家は水戸徳川家とはゆかりの深い

人物である。「向岡記碑」からは部屋住み時代の齊昭の政治への意気込みを読み取ることができる。水戸藩の政治という観点から「向岡記碑」検討する。

## 1. 碑文の登場人物

碑文には太田道灌、源義家が登場する。太田道灌と水戸徳川家の関わりは初代頼房まで遡る。徳川家康の側室で太田家 4 代康資の息女、お勝は家康との間に生まれた市姫が亡くなったのち家康の命で初代頼房の養母を務める。家康の死後落飾し永松陰と称し、三代将軍家光から道灌ゆかりの北鎌倉の扇ヶ谷を賜り英勝寺を創建。創建には頼房の娘小良姫を玉峯清因と名付け得徳させ門主に迎え開山。その後代々の持住は水戸徳川家の姫が務めた。齊昭は、水戸徳川家と関わりがあり文人でもある道灌を碑文に織り込んでいる。和歌の前書きから齊昭の太田道灌への尊敬、憧れをうかがうことができる。向ヶ岡には源義家が天喜 5 年（1057 年）の前九年の役で奥州へ遠征した際、兜をかけた松があったと記されている。

国元にも義家の伝説が数多く残る。寒水石を産出する真弓山は「陣ヶ峠」と呼ばれ、奥州征伐へ向かう頼義、義家親子がこの山で戦勝祈願をしたことが由来である。真弓山には大同 2 年（807）創建と伝えられる真弓神社がある。農業、漁業関係者など多くの人々に信仰されており常陸にゆかりのある佐竹家、水戸徳川家とかかわりが深い。義家は凱旋時朱塗りの弓を奉納したことから真弓山と名付けられたといわれている。表参道に寒水石製の義家の膝掛石が残る。奥州征伐の際、十四歳だった義家は出陣に際し十五歳の方が勝運があるといわれたため、急遽六月一日を元旦として年越しの祝いをするようになった。その祝いの最中、突然、季節はずれの雪が降り始め、頼義、義家父子は、「これは吉兆、我々の勝利は疑いなし」と決戦前の兵士たちと励まし、奮い立たせて奥州へと向かった。兵士たち騎上の馬も勢いづき降り積もる雪を蹴り立てて山を降りていったので、この時、馬が踏み固めた雪が固まり寒水石になったといわれる。水戸藩と寒水石の関わりは 2 代光圀まで遡る。石州流茶道で知られる大和小泉藩 2 代目藩主の片桐石見守貞昌（石州）に対し茶の教えのお礼として京都の屋敷に寒水石の手水鉢が贈られる。8 代齊脩は「向岡記碑」「徳川齊脩の漢詩碑」に寒水石を使用。齊脩死後、寒水石の使用は齊脩から齊昭に引き継がれる。寒水石は水戸八景碑（山寺晩鐘、巖船夕照、水門帰帆 3 碑に使用）、「弘道館記」、水戸偕楽園の吐玉泉、徳川齊昭が寄進した京都仙道御所の燈籠が知られる。仙道御所への寄進は寒水石の全国への売り込みという側面があったと考えられる。寒水石を持ち出すと天狗の祟りがあると云われ、齊昭は寒水石について「武士の道をひろめんいしなれは真弓の神か何かうらみん」と詠み、弘道館建設時、寒水石採掘の際大風雨になり齊昭は「武士の道引立にとひく石を真弓の神のいかておしまん」「我国の道にそうむる石なれは真弓の神のたゝりあるまし」と詠んでいる。義家伝説、天狗の祟りは寒水石のブランド化に一躍買ったと考えられる。しかし、齊昭は失脚し寒水石の売り込みは頓挫。齊昭は復帰後、幕府の海防掛就任し国政へ。寒水石に関する記述はみられなくなる。齊脩、齊昭の目指した鉱業としての寒水石の採掘、流通は明治時代、西洋建築の建築部材の需要が高まることによって実現する。

## 2. 石碑の建立の意義と徳川齊昭の政治

齊昭は石碑の建立と名所の創出について碑文の中で、京都奈良の名所旧跡について述べた上で「東の国、武蔵野の荒野も、何時の間にか名の知れた所が多くなって、例えば石碑を建てるとしてその主旨などを書きつけたならば自然と人々の手引きともなり、ひいてはその地の誉れともなるだろうよ。」(飯村博訳)と述べている。齊昭は国元で水戸八景を選定し(仙湖暮雪、青柳夜雨、山寺晚鐘、太田落雁、村松晴嵐、水門帰帆、岩舟夕照、広浦秋月)石碑を建立(注7)。石碑建立による名所の創出を实践。碑を回ると約30里(110キロ)で水戸藩市の鍛錬のため徒歩による八景巡りを奨励したといわれている(図9)。清の康熙帝は1699年「西湖十景」の整備を行い、景名を題し石碑と碑亭建立し「西湖十景」の復活を実現している(注8)。水戸八景碑の場合は名所の創出だが、景名を題した石碑建立し名所を創出するという点で共通している。実際に水戸八景碑めぐると8碑のうち太平洋岸に3碑、うち2碑は那珂川河口の両岸に配置されている。那珂川は交通、流通、水戸城の防衛上必要な河川で、水戸城の北、那珂川の対岸に1碑が建立されている。涸沼は海運の拠点で湖畔に1碑が建立されている。千波湖と常陸太田の3碑を除き碑は軍事、経済にとって重要な場所に建立されている。那珂川河口には祝町向洲台場、大洗には磯浜陣屋が建設され太平洋岸と那珂川が水戸藩にとって重要な軍事拠点だったことがわかる。齊昭の設計した偕楽園、好文亭は大洗方向の景観から軍事施設と指摘されている(注9)。好文亭の外見は2階建てで構造上は3階建てで(注10)、好文亭のある台地は東側の庭園より一段高くなっており、実際は4階建ての高さに相当する。庭園にとって重要な中秋の名月の月景観を検討すると、2代光圀の緑ヶ岡にあった高枕亭跡(現、徳川ミュージアム)は千波湖と月の出の月景観を眺望できるが、好文亭から、月の出が千波湖に映る月景観があるかどうかを検討すると一年を通して月の出と千波湖の月景は高枕亭跡に及ばない(図8)。しかし、好文亭からは軍事拠点である那珂川河口全体を見渡すことができる(図7)。一方月景観の良い高枕亭跡は千波湖南西側の台地の突端によって那珂川河口全体を見渡すことはできない(図6)。高枕亭跡の台地は水戸城の台地と桜川、谷で分断されていることも防衛上問題なのだろうか。緑ヶ岡は偕楽園にはならず、齊昭は菓草園を茶畑にして駒込邸で行った試験栽培と製造実験の場となった。水戸八景碑、偕楽園に軍事的な目的があったのは、文政7年(1824年)に水戸藩内の大津村にイギリスの捕鯨船員12人が水や食料を求め上陸し、翌文政7年(1824年)、会沢正志斎が齊昭に対して意見を呈上のため『新論』の執筆が影響していると考えられる。偕楽園は庭園として建設されたが、実際は梅の栽培による非常時の食糧確保、大洗方面の景観から軍事施設としてここに火の見櫓ともいえる好文亭を建設した。水戸八景碑建立は西湖十景の再興を目指し実現した康熙帝の影響を受けていると考えられるが、名所の創出だけではなく、徒歩による八景巡りの奨励も非常時に対応するため軍事的な要素が加味されていると指摘できる。「向岡記碑」には軍事的な要素は記されていないが、藩主就任後の政策と当時の水戸藩が置かれた社会状況から構想の中に軍事的要素が加えられていたのは確かである。しかし、水戸八景碑によって名所が創出されたのは確かで、このうち常陸太田の2碑は瑞龍山、西山荘など水戸徳川家の歴史に関わる場所に建立され、西湖に見立てられた千波湖には1碑が建立さ

れている。水戸八景碑の行程の中には「向岡記碑」を産出する真弓山、名勝、遊郭、農業、漁業、鉱業、産業に関わる場所もある。水戸偕楽園は「領民と偕（とも）に楽しむ」という考えで建設された。水戸八景碑は藩士の鍛錬、軍事目的の一辺倒ではなく学びと観光、遊びも要素として加えられている。また、齊昭の数々の政策は別々ではなく、全体で一つの政策として評価できる。齊昭の目指したのは「偕楽園の文人好みの好文亭に客人を招き、南画派の立原杏所の作品を掲げ、七面堂製陶所で製造した茶器を使用し、西湖の龍井茶を再現した緑ヶ岡の煎茶を、西湖に見立てた千波湖を眺めながら味わう。茶会ともに開催された歌会では大子で生産した和紙を使用」という晴れの空間だったのではなかろうか。

## まとめ

齊昭は、文政10年（1827年）小石川邸が火事で被災後、駒込邸に避難する。駒込邸の景観と日々の生活を「向岡とて上野東叡山と相對峙邸を環て老杉長松圍み都下紅塵中自ら仙境をなせり公此間にありて日夕心を和漢古今の書に潜め大に得る所あり」（注11）と記している。「向岡記碑」の和歌を詠んだ文政11年（1828年）、政治に関与することのできない部屋住みの齊昭は数えて30歳、「向岡記碑」の中で政治への参画、意気込みを宣言している（注12）。また、政治的な碑文の揮毫を許した8代藩主齊脩の寛容さも無視できない。齊昭は齊脩の政治に対して批判的だったとされるが、齊脩の政策であった寒水石の売り込みは齊昭の失脚で頓挫したものの引き継いでいる。政治の連続性から齊脩の政治についても注目すべきだろう。「向岡記碑」の建立と水戸八景碑の建立は、清の康熙帝の行った西湖十景の復活を目指した整備と建碑に倣ったもので、齊昭の政治の原点が駒込邸と「向岡記碑」にあったといえる。

## 参考文献

- 原祐一、石原道知、堀江武史 2007 「本郷区向ヶ岡弥生町における発掘調査と文化財保護 公開の歴史そして、弥生時代名称由来土器発見地」文化財保存修復学会第29回大会  
茨城県立歴史館 2008 『平成20年度特別展 幕末日本と徳川齊昭』  
原祐一、石原道知、堀江武史他 2008 「向ヶ岡弥生町の弥生土器発見地と土器の名称由来となった「向岡記」碑の保存修復と公開」日本考古学協会第74回（2008年度）総会発表要旨 pp.64-65  
原祐一、石原道知、堀江武史他 2008 「徳川齊昭建立「向岡記」碑の保存」文化財保存修復学会第30回記念大会発表要旨 pp.96-97  
原祐一ほか 2008 『「向岡記」碑 保存修復報告書 「向岡記」碑の研究』  
原祐一他 2009 「P107 弥生時代名称由来「向岡記」碑の保存修復・設置場所の検討と活用」文化財保存修復学会第31回大会発表要旨 pp.288-289  
塩原都、飯村博 2011 「名碑「向岡記」」東京大学史紀要第29号 pp.1-15  
東京大学総合研究博物館、東京大学埋蔵文化財調査室 2011 『特別展 弥生誌 向岡記碑をめぐる』  
群馬県立近代美術館 2012 『江戸の風雅』  
野田麻美 2013 「立原杏所筆 向岡花甸図屏風」朝日新聞出版『國華』第1417号 第119編 第4冊  
文京区企画政策部広報課 2014 「区報ぶんきょう」 2014年4月25日 No.1594 文京区発行  
茨城県立歴史館 2016 『平成27年度特別展 茨城の宝Ⅰ』

## 注

1. 原祐一 2013 「水戸藩駒込邸庭園の造園と借景に関する一考察」公益財団法人日本造園学会関東支部『平成 25 年度 日本造園学会関東支部大会 関東支部設立 30 周年記念大会梗概集/事例・研究報告集 第 31 号』 pp.78-79
2. 原祐一 2015 「不忍池（小西湖）を中心に展開した西湖風景と大名庭園」公益財団法人日本造園学会関東支部『平成 27 年度日本造園学会関東支部大会梗概集/事例・研究報告集 第 33 号』 pp.49-50
3. 原祐一 2015 「不忍池周辺の大名庭園の造成と景観」日本庭園学会『日本庭園学会平成 27 年度 日本庭園学会全国大会 シンポジウム・研究発表資料集』 pp.12-19 向ヶ岡の範囲は、北は道灌山交差点辺りとしたが、上野東照宮の立地する台地が景観を遮るため北は団子坂までと訂正した。
4. 原祐一、町田聡 2014 「P042 向岡記碑の文京区文化財指定までの経緯と今後の課題」財団法人文化財保存修復学会「第 36 回大会 於 東京 研究発表要旨集」 pp.154-155、吉田令世 1830 「水の一すち」茨城大学附属図書館所蔵菅文庫、刊本は近藤圭造編 1886 『存採叢書』 25
5. 「徳川齊脩の漢詩碑」「向岡記碑」の名称で文京区文化財指定された
6. 水戸市史編さん委員会 1982 『水戸市史 中巻（四）』水戸市役所発行 pp.1164-1174
7. 観瀾所は水戸八景碑にないが八景碑の一つとされる。太平洋岸に建立。
8. 進士五十八、楊舒淇「中国杭州「西湖十景」の変遷からみた風景地の成立過程」1997 『日本造園学会ランドスケープ研究 Vol.60,NO.5』 pp.465-470
9. 茨城県 1961 『史跡名勝 常盤公園内 好文亭及び庭園復元工事報告書』
10. 茨城県 1979 『偕楽園の現況調査報告書（偕楽園復元保存基本計画策定のための資料）』
11. 『水戸藩史料別記』上巻一第一章 烈公の少壮時代 吉川弘文館 1970 『水戸藩史料別記上』1897 年 5 月刊の再版 pp.22-23
12. 塩原都氏による指摘

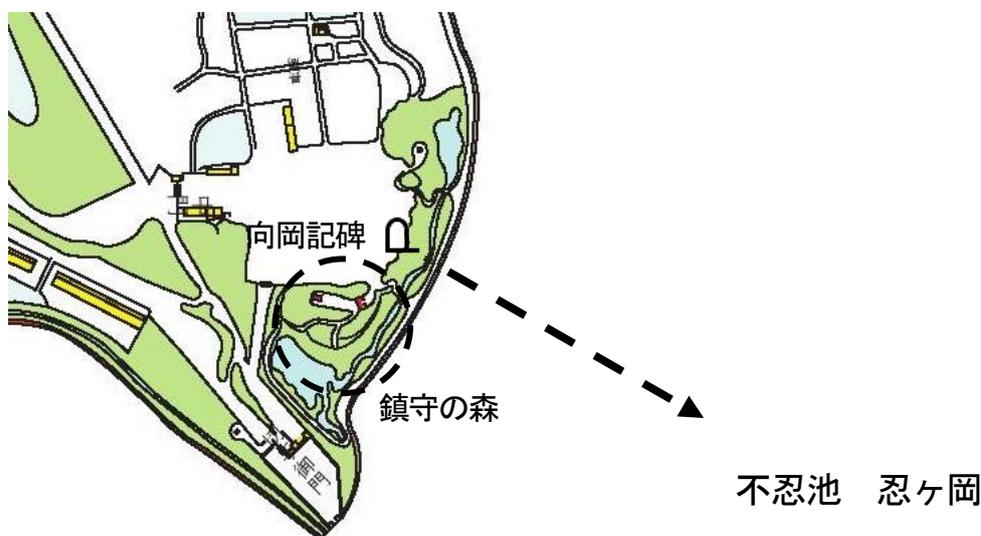


図1 文政9（1826）年写『向陵彌生町舊水戸邸繪圖面』（原祐一蔵より作成）  
碑の位置は『向岡記』信義筆（徳川ミュージアム蔵）より推定

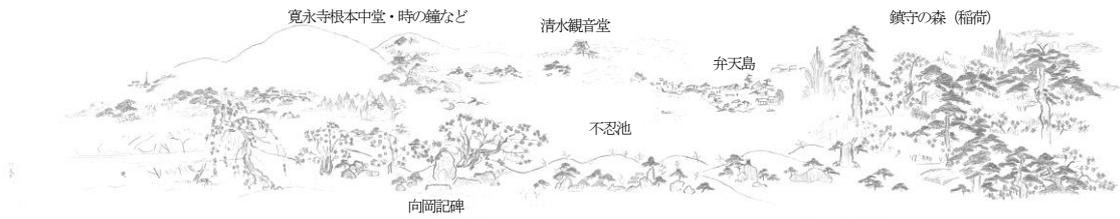


図2 信義筆『向岡記』(徳川ミュージアム蔵) 原模写

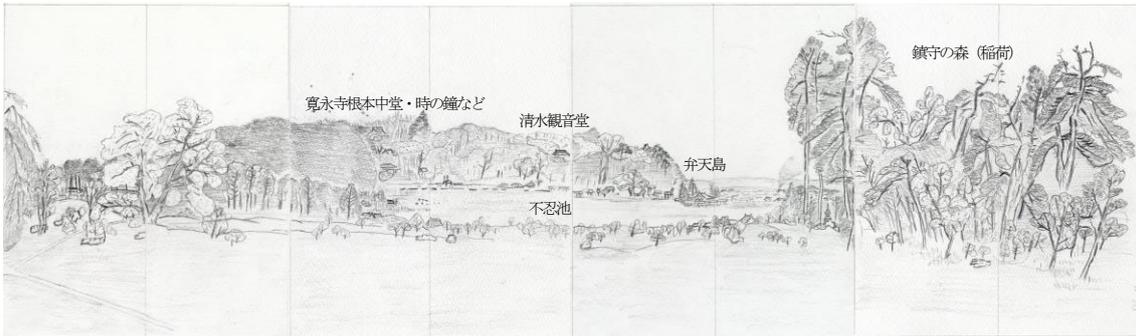


図3 立原杏所筆『向岡花甸図屏風』(個人蔵)  
群馬県立近代美術館 2012『江戸の風雅』より原模写

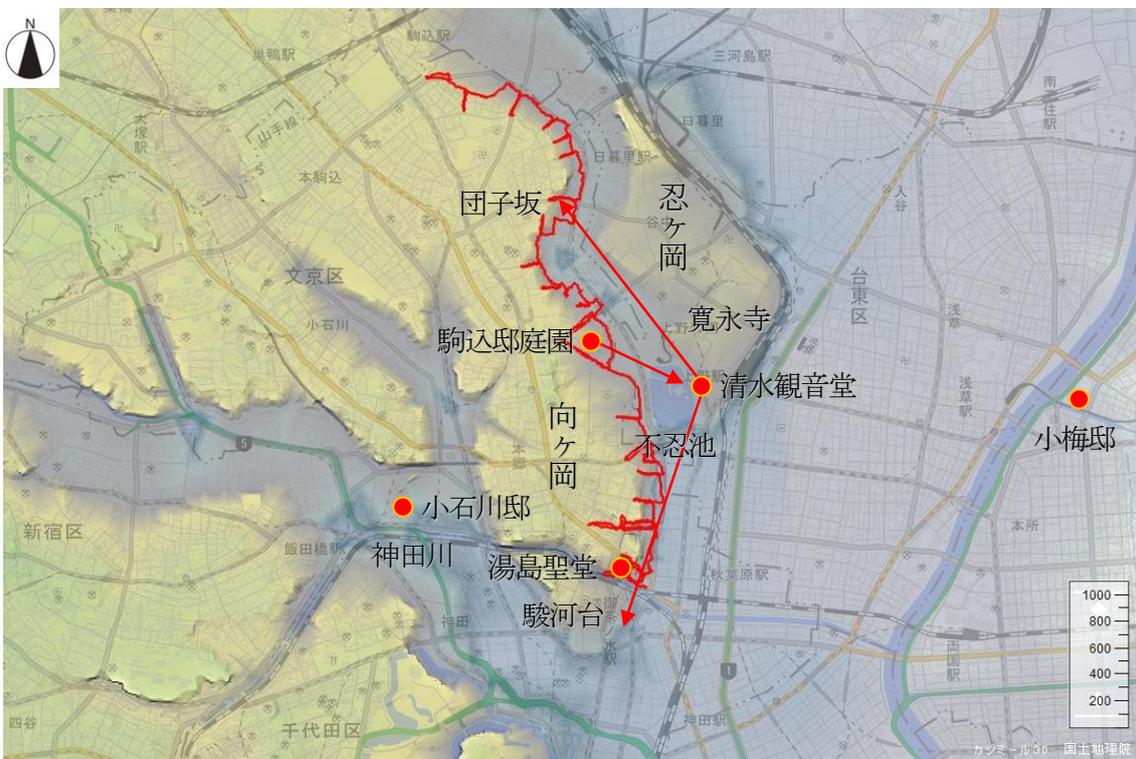


図4 清水観音堂から見渡すことができる向ヶ岡の範囲と水戸藩邸の位置  
カシミール3Dより作成、GPS データガーミンForeAthlete620Jで2014年11月19日計測

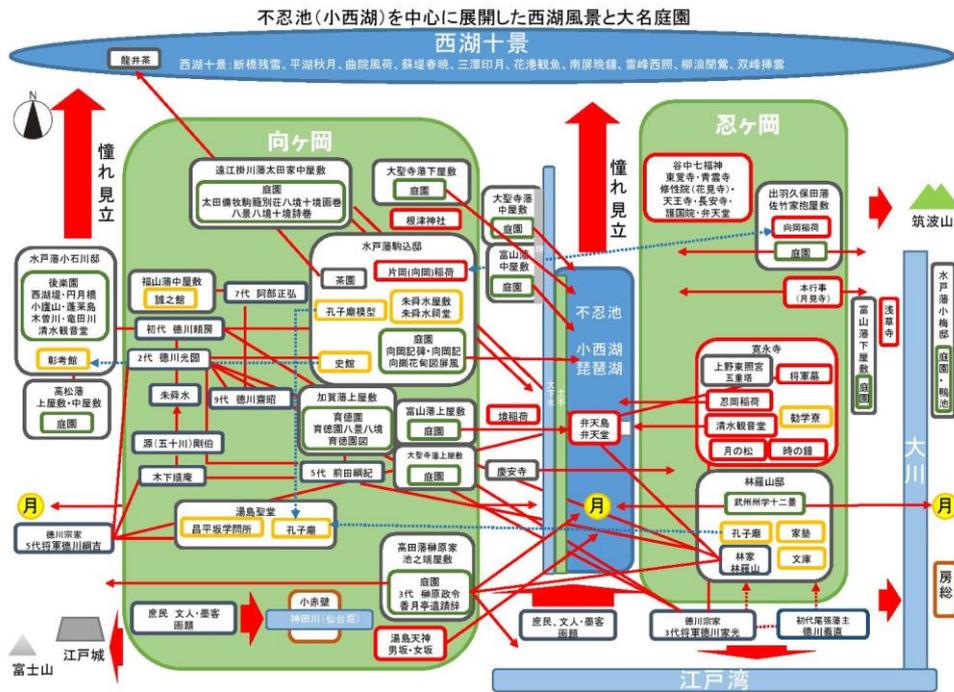


図5 不忍池を中心とした西湖風景

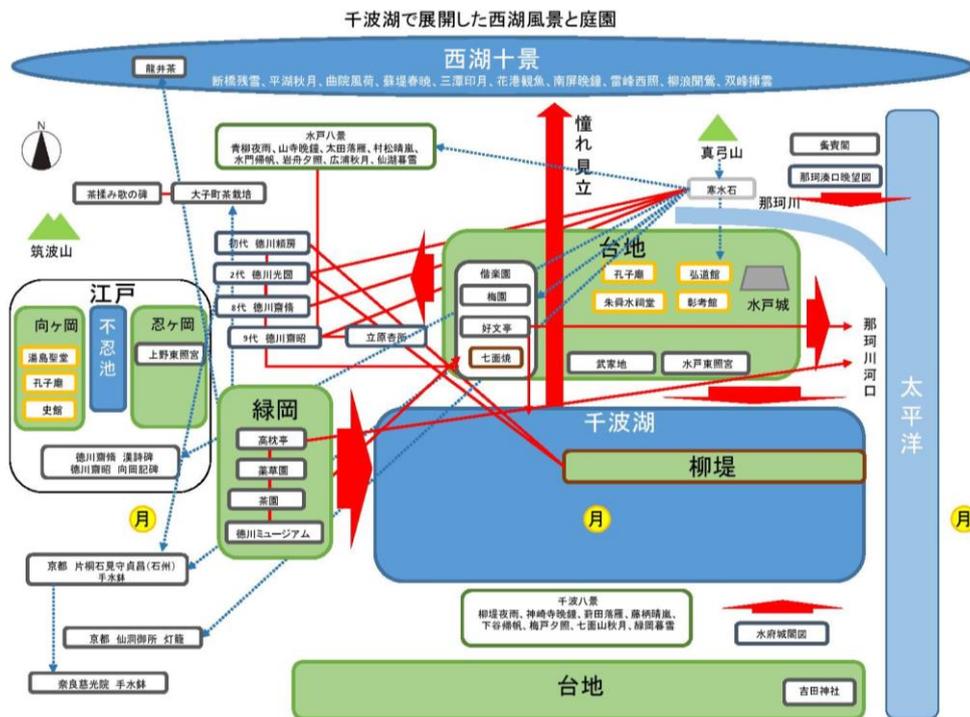


図6 千波湖を中心とした西湖風景



図7 借樂園好文亭と高枕亭跡からの那珂川河口の景観 水戸八景碑と軍事施設  
カシミール3Dより作成、GPS データガーミン ForeAthlete620J で 2013~2014 年計測

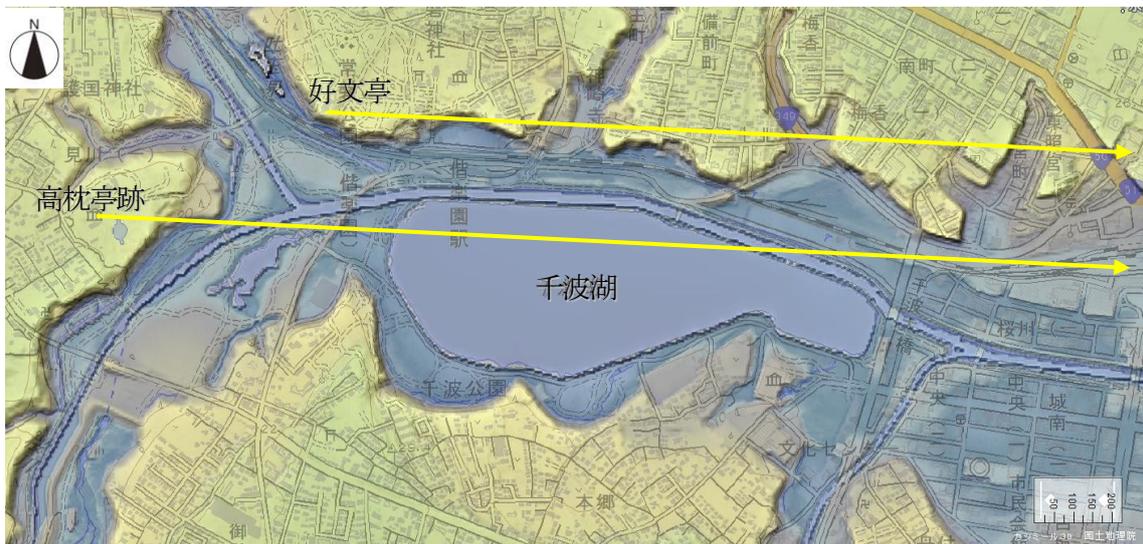


図8 2015年9月27日の中秋の名月 好文亭と高枕亭跡からの月の出  
月の出は暦情報データベース（北海道大学）で計算、カシミール3Dで作成  
千波湖は明治時代以降 1/2 以下に縮小

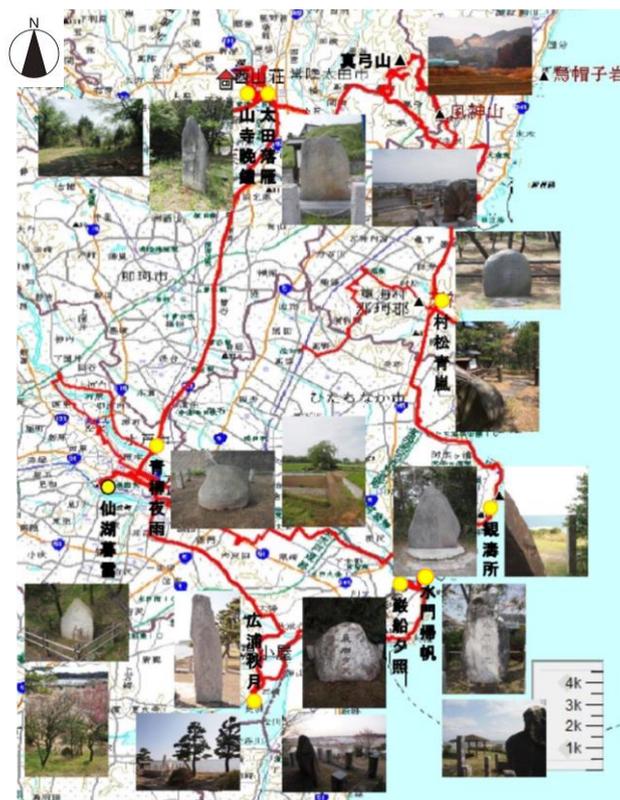


図9 水戸八景碑と観瀾所 碑文と碑の対峙する景観

カシミール3Dより作成、GPS データガーミン ForeAthlete620J で2013～2014年に計測

表1 徳川齊昭の政治と「向岡記碑」(和歌は町田聡作成資料より)

元号・西暦	齊昭の藩政	徳川齊昭 関連事項	「向岡」「寒水石」に係る和歌
寛政12年(1800年)	部屋住み時代	小石川邸で齊昭誕生	
文化2年(1805年)		治保没、治紀藩主就任(7代)	
文化4年(1807年)		初の水戸入り、茨城郡降幡村巡視	
文化5年(1808年)		久慈郡陪巡視	
文化13年(1816年)		齊脩藩主就任(8代)	
文政7年(1824年)		水戸藩内の大津村にて、イギリスの捕鯨船員12人が水や食料を求め上陸	
文政8年(1825年)		会沢正志齋が齊脩に対して意見を呈上のため『新論』執筆	
文政9年(1826年)		『向陵瀨生町舊水戸邸繪図面』	
文政10年(1827年)		小石川邸火災	
文政11年(1828年)			駒込邸に移る、3月11日「向岡記」を詠む 8月齊脩、大塚の支藩陸奥守山藩邸に寒水石製の歌碑を建立 「向岡記」建立は文政11年から同13年頃か
文政12年(1829年)		齊脩没、齊昭藩主就任(9代)	
天保元年(1830年)	第1期 藩主時代天保の改革		
天保3年(1832年)			
天保4年(1833年)	第2期 藩主時代天保の改革	水戸入り、茨城郡降幡村巡視、水戸八景を選定したとされる(山寺晩鐘、巖船夕照、水門帰帆は寒水石製)	
天保5年(1834年)		久慈郡陪巡視 駒込邸で茶の試験栽培と製造	

天保6年(1835年)		水戸、緑岡茶園で茶の試験栽培と製造 京都仙洞御所に雪見灯籠と水盤(寒水石製) を寄進	
天保7年(1836年)		偕楽園記	
天保8年(1837年)		藤田東湖『弘道館記』	
天保11年(1840年)	第3期 藩主時代 天保の改革		1:「武士の道をひろめんいしなれば真弓の神か何かうらみん」 2・3(天保11年頃か):弘道館建設の時、真弓山より寒水石を採掘するに大風雨なりければ「武士の道引立にとひく石を真弓の神のいかておしまん」「我国の道にそうむる石なれば真弓の神のたゝりあるまし」
天保12年(1841年)		弘道館仮開館 弘道館記(寒水石製)	
天保13年(1842年)		偕楽園開園 吐玉泉(寒水石製)	
天保14年(1843年)		幕府、異国船打払令、阿部正弘老中就任	
弘化元年(1844年)	幕府参与時代	駒込邸で致仕・謹慎、同年解除	4:今日より駒込の向岡へ行きて雨戸をたて居ると思へは「たれこめて長き日数をふるがうちにいつかまはれむさみたれの空」 16・17:弘化元年五月のはしめつかたこと二あたりて向の岡にかきこまれる比雨のいたく降けれハ「垂こめて長き日かすをふる雨のいつか晴んと待そ苦しき」 「いつはれん程こそしらね押なへて世ハさみたれの雲の乱れに」 参考(戸田忠敏の和歌):君の向か岡にこもらせたまひけるに霜月二十六日將軍家の台命によりてとけさせ給ひしより承りてうれしきあまりに「冬こもりころの春めくあしたかな向か岡の雲はれしより」
弘化2年(1845年)		幕府の海防掛就任	
嘉永3年(1850年)			11:嘉永三年やよひはかり信濃守真田幸貫朝臣の許へ庭の桜をゝりて遣すとて「君の代の春にむかひの岡なれハ類またなき花ハさくらむ」 12:嘉永三年やよひはかり信濃守真田幸貫朝臣の許へ庭の桜をゝりて遣すとて「君の代の春にむかひの岡なれハ類またなき花ハさくらむ」
嘉永4年(1851年)			13:その明るとし(嘉永四年)の弥生にむかひの岡の花見むとて刑部卿訪らひきにけれハ「あれはてし庭もさくらの咲時ハ吉野初瀬の春も思ハす」
嘉永6年(1853年)		ペーリー浦賀来航	
安政元年(1854年)		ペーリー浦賀来航、日米和親条約	
安政2年(1855年)		安政の大地震	
安政4年(1857年)		阿部正弘没	
安政5年(1858年)		駒込邸で急度慎	
安政6年(1859年)		蟄居時代	国元で永蟄居へ
安政7年(1860年)	齊昭没		

## 謝辞

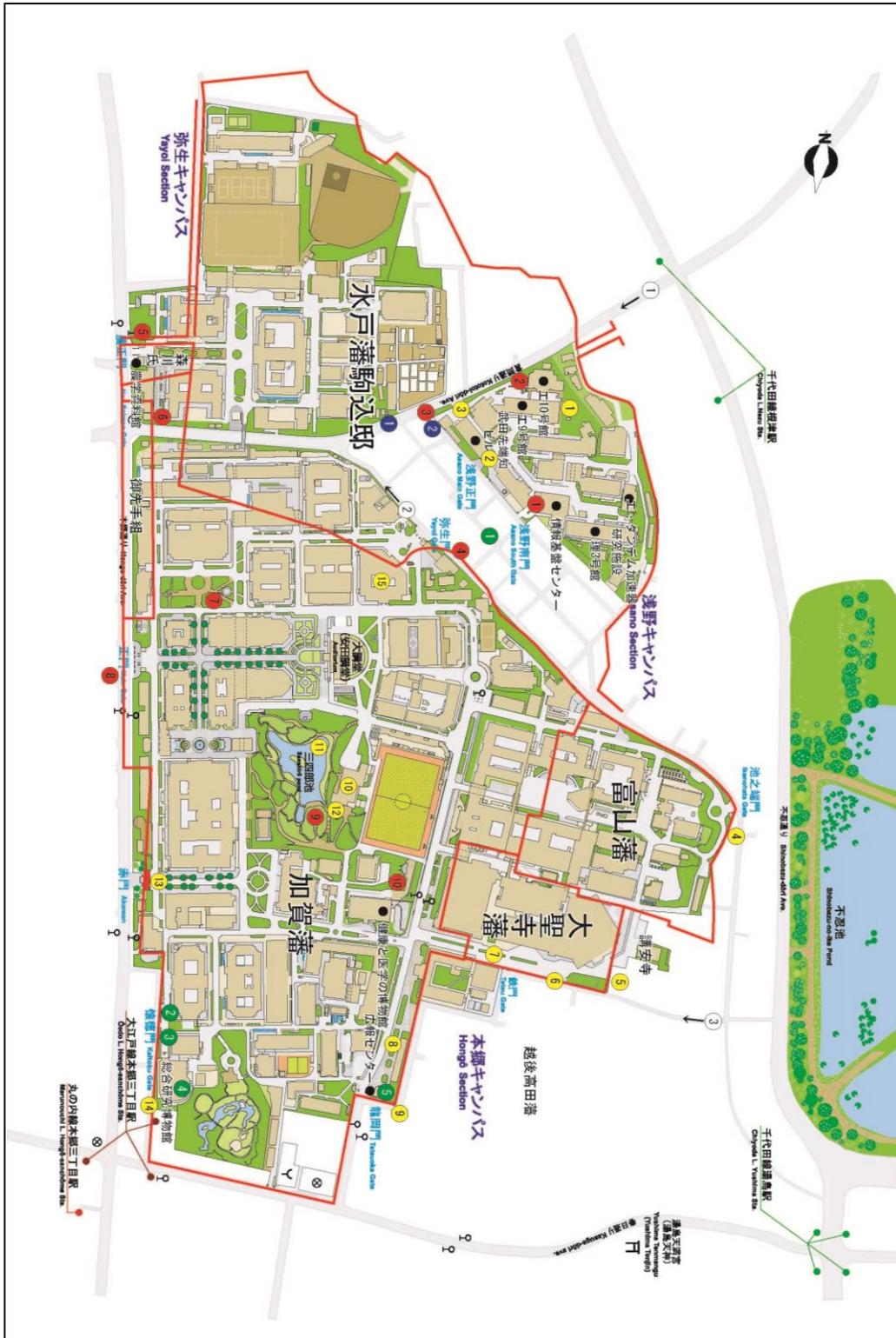
向岡記碑の調査から保存修復、研究の過程で以下の方々、組織にお世話になりました。(敬称略)。ここに謝辞申し上げます。

青木誠、青山正昭、浅野長孝、飯村博、池田悦夫、石井龍太、伊藤博之、仰木ひろみ  
岡山輝明、小泉好延、小林善行、塩原都、清水謙太郎、関岡裕之、谷川章雄、垂水李  
戸田宏之、中野忠一郎、西秋良宏、細谷恵子、堀江武史、町田聡、森田信博、丸茂一美  
山崎範子、山田しげる、横山淳一、渡辺延志、渡辺貞幸、蕨由美

加藤建設株式会社、株式会社小林石材工業、小石川後樂園、小石川後樂園ガイドクラブ、NP  
O法人小石川後樂園庭園保存会、公益財団法人徳川ミュージアム、  
東京ケーブルネットワーク、東京大学工学部教職員組合、東京大学広報センター、  
東京大学教職員組合、東京大学総合研究博物館、日本石造文化学会、文京区教育委員会  
文京ふるさと歴史館、向ヶ岡弥生町会、谷根千工房

調査研究から現在まで大学関係者、文京区弥生の住民の方々はじめ数多くの方々にご支援いただきました。

2011年に亡くなった青木誠さんには、2001年、弥生時代の方形周溝墓、弥生土器、ガラス小玉の出土した工学部武田先端知ビルの遺跡調査からお世話になりました。浅野家当主 浅野長孝さんを紹介いただき、浅野家の差配（土地家屋管理人）時代の浅野家の土地管理史料を閲覧させていただきました。駒込邸から現在の向ヶ岡弥生町を繋ぐ史料で、駒込邸研究のために不可欠な史料でした。向岡記碑の保存修復、武田先端知ビルの方形周溝墓の移築は、東京大学施設部OBでもあった青木さんの大学への働きかけがなければ実現しませんでした。浅野地区に吉野ヶ里歴史公園に負けない弥生時代の博物館を建設するという青木さんの構想は実現していませんが、方形周溝墓と出土土器が保存され、向岡記碑が保存修復され、浅野構内に遺跡の解説板が設置されました。東京大学総合研究博物館で向岡記碑の展示が行われ、浅野地区には国指定史跡の弥生二丁目遺跡があり、水戸藩邸駒込邸の一角で明治時代は警視庁射的場が建設され近代史にとって重要な場所の一つであるということが全国に知られました。遺跡調査と遺構の保存は江戸時代の駒込邸時代まで遡り、那須上侍塚古墳、下侍塚古墳の調査で知られる水戸徳川家の文化財、遺跡に対する姿勢も現在に引き継がれました。



現在の東京大学と江戸時代の大名家敷の配置

東京大学埋蔵文化財調査室調査研究プロジェクト 2

向岡記碑の研究

3D デジタル測量による記録保存と向岡記碑の保存修復報告書

2016年3月5日発行

編集 向岡記碑保存周知研究グループ・東京大学埋蔵文化財調査室

〒167-0051 東京都目黒区 4-6-1

東京大学埋蔵文化財調査室

印刷 株式会社 芳文社

〒194-0037 東京都町田市木曽西 2-3-14